

宝塚市西谷村の有名人 ～林 治人 さんの活躍～

18 期 佐藤寅夫

18 期の林 治人さん、生まれは愛媛県松山、元は大阪池田市の職員、独身の頃は溪流釣りが好きで近郊の猪名川の上流や武庫川の支流に良く出かけていたそうです。ある時釣りをしているうちに道に迷い出会った所が現在の西谷地区。ここは宝塚市の北西部に位置し現在では近郊都市から 20～30 分で行けるローカル色豊かな地区です。

自然の豊かさや里山の美しさは生物多様性保全上重要な地区です。また、絶滅危惧種のサギソウ、トキソウ、ハッチョウトンボ等が生息する丸山湿原群は生物多様性の観点から重要度の高い湿地として環境省の指定を受けています。当地区はNHKのテレビ番組でも里山特集番組として放映されたことが有ります。

最近では新名神高速道路が開通して宝塚北SAは当地区にあります。また、当地区は武田尾温泉、旧福知山線の廃線跡、武田尾溪谷、丘陵地に広がる田畑や棚田、桜、牡丹やダリア等栽培で四季を通じて変化に富んだ景観を織りなして、これ等に加え当地で働く人々の気風、伝統文化の行事等地域の風土に感動した林治人さんは以降西谷村にせつせと足を運び、数多くの西谷の魅力を発見して、ついに結婚を機に反対される奥様を説得して住まいも西谷村に移し現在に至っています。

こうして西谷の良さを多く体験し当地を愛した林さんは、60歳の定年を機に自分一人で楽しんでいた西谷村の良さを広く皆さんに発信し、より多くの方の心の糧にならないかと、地域誌「西谷月報」を発行することを思い立ち。取材、編集、印刷、発行、配布と全て手作り、自費出版活動を開始したとのことです。最初は50部程度から始め、だんだんとファンが多くなり、今年（2019年）の4月号は遂に4,000部発行されたとの事です。四季の移り変わりをテーマとしたカレンダーの発行にも着手されています。

高齢となり一時は中止を考えた時期もあった様ですが、初心の気持ちが忘れられず続けているうちに、6年前に思いを同じくする若者（当時29歳の女性）の支援を受ける事となり、名称も「にしたによいしょ」に改名して費用の方も宝塚市の助成金を得て、現在は4人のスタッフと活動を共にされています。また、昨年10月から宝塚市社会教育委員会社会教育課の非常勤職員として日曜、祝日は「宝塚自然の家」にも関わっておられます。

現在の西谷地区は人口約2,800人、世帯数約800世帯と小さい集落ながら今では彼を知らない方は皆無で、何処に行っても歓迎され野菜の裾分けは勿論、色々な情報が入る様になり嬉しい日々が続いているとのことです。

現在では発行した月報は宝塚市内の小中学校や図書館その他公共施設から何十部の単位で注文が有り身銭を切った発行ながらスタッフ一同誇りを持って取り組んでおられる様です。

以下林さんのお勧め風景を紹介します。



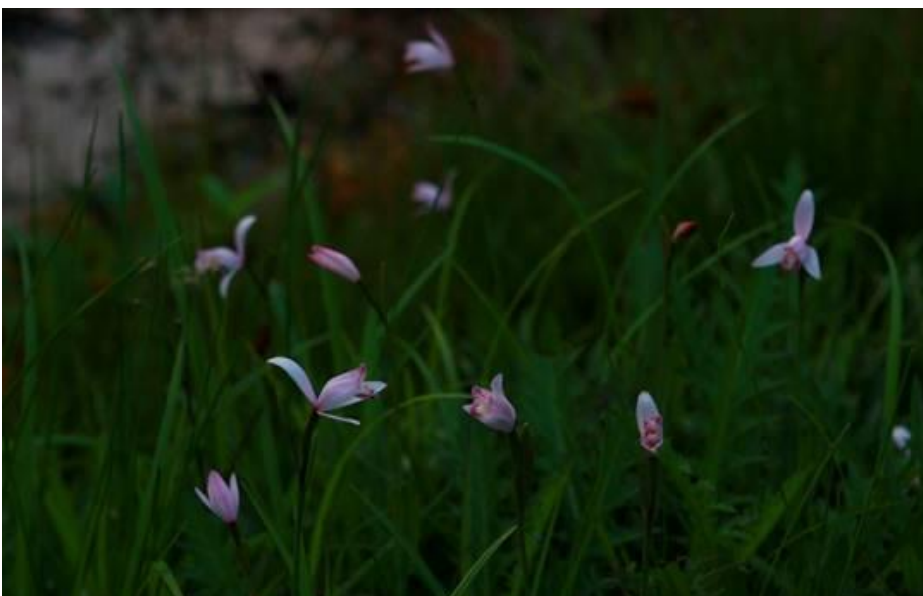
西谷の有名人：林 治人 さん



春

旧武田尾駅近くの「櫻の園」（現在は宝塚市立公園）ここは百年も昔に桜博士で有名な亡き笹部新太郎の桜の演習林として開かれたもの

ヤマアジサイ：
山裾で時々見かける野生の花。人工的に色付けされた花より野生の花が放つ色彩は引きつけられることが多い



夏

トキシソウ：
湿地に咲く花で当地では他にカキラン、サギソウ、ウメバチソウ、サワギョウ等湿地に咲く稀少な花が季節ごとに見られる



ダリアの園：
昭和7年に村人数名が栽培研究を始め、今では全国でも有数の球根出荷地。花の頃には多くの見学者が訪れ花に癒され、うっとりとした表情に触れ合える楽しいところ

秋

千刈湖の奥まったところに佇む普明寺。創建は室町時代に遡る歴史のあるお寺。ここは神秘的で静寂そのものの雰囲気浸ることが出来る



藁干し：
稲刈りも終わり、中秋から深秋にかけて見られる風景。間もなく寒い冬の訪れの知らせ



冬

初冬の千刈水源地（千刈湖）では連日、朝霧？朝靄？が醸し出すこのような幻想的な風景が見られる

西谷の冬景色：
西谷は宝塚市の北海道、別天地、桃源郷など、賑わう南部の人々からいろいろな呼び名が付けられている、冬季には数回の積雪を見る

